

1 所在地 兵庫県出石郡出石町田多地字持アミほか

2 調査期間 一九八八年（昭63）一月～三月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会

4 調査担当者 西口圭介・藤田 淳・甲斐昭光

5 遺跡の種類 祭祀遺跡

6 遺跡の年代 九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、豊岡盆地の東端に位置し、南西約1kmには出石川が北流する。小野川（六方川）の河川改修工事にともない発掘調査を実施し

(出 石)

道にあたり、しがらみを検出してゐる。木簡(1)は九世紀代の木製祭祀遺物群と共に河道内より出土し、木簡(2)は層位からみて、(1)より新しいものと考えられる。

祭祀遺物は墨書人形・馬形を含み、総数二〇〇〇点を

越える。墨書土器は五点出土し、「出石二」「西」「諸」「福（内面に墨書）」「开」と判読出来る。

8 木簡の釈文・内容

(1) 交

(2) 下里郷 ☐ ☐ ☐

[illegible]

□

185×50×5 032

(2)は赤外線カメラにより判読した。下里郷は「但馬国太田文」の出石郡下里郷、『和名類聚抄』では資母郷にあたり、現在の出石郡但東町中山周辺に比定される。出石郷に属する砂入遺跡より出石川沿いに約二〇km上流にあたる。

(西口圭介)

